

# 中央公園の官民連携によるリニューアル

～おにクルから広がる共創のまちづくり～



茨木市の中心市街地は、1970年に開催された大阪万博を契機に主要な都市施設が整備され、現在一斉に更新時期を迎えています。

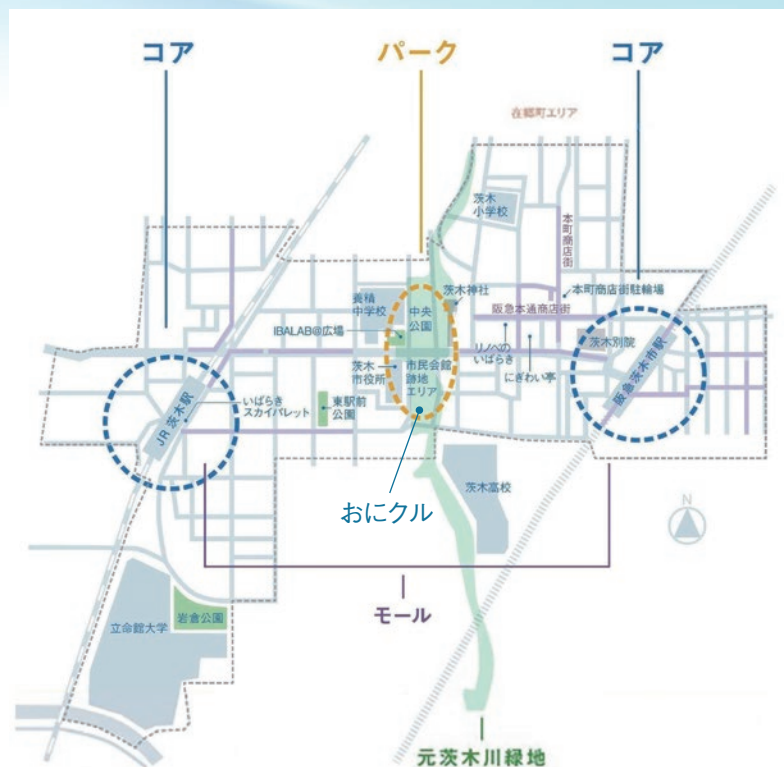
また、JR茨木駅と阪急茨木市駅(2コア)が東西に位置し、駅間は約1.3kmとやや距離があるのですが、複数の商店街や中央通り・東西通りによる交通商業の東西軸(モール)があり、その中間地点には、緑豊かな自然文化の南北軸である元茨木川緑地や中央公園(1パーク)といったゆとりのある都市空間を有していて、歩きやすく魅力的なエリアになるポテンシャルがあります。

そこで、この都市構造を「2コア1パーク&モール」と捉え、文化子育て複合施設「おにクル」の整備を契機にパークエリアから各事業が連携・連動した、面的に広がるまちづくりを展開しようとしています。

その推進にあたっては、市民や民間事業者等の多様な主体との「共創」のプロセスを大切にしています。



多様な主体との共創(社会実験イバラボ)



2コア1パーク&モールの都市構造

## ■パークエリアの1期整備「おにクル」

「おにクル」は伊東豊雄氏と竹中工務店による設計で、グッドデザイン賞や、みんなの建築大賞などを受賞し、徹底した市民参加プロセスの積み重ねで多様な活動が行われ、年間約200万人が来館し、「日々、何かが起こり、誰かと出会う」立体的な公園のような複合施設として新たにぎわいを見せています。



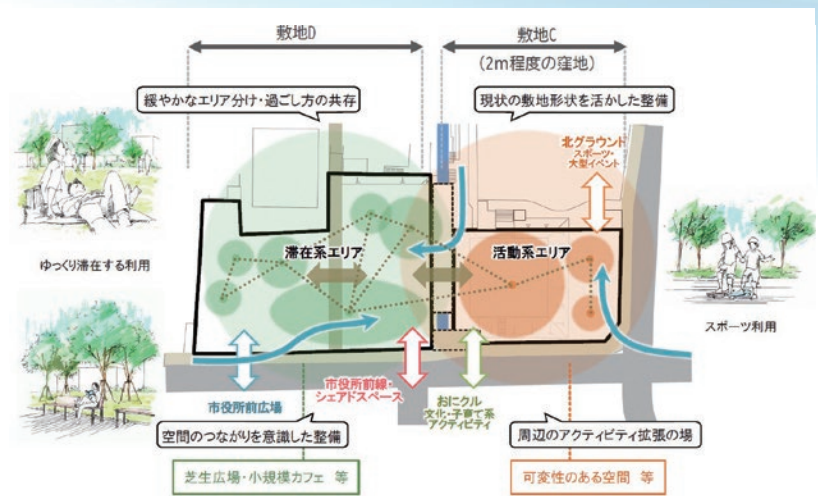
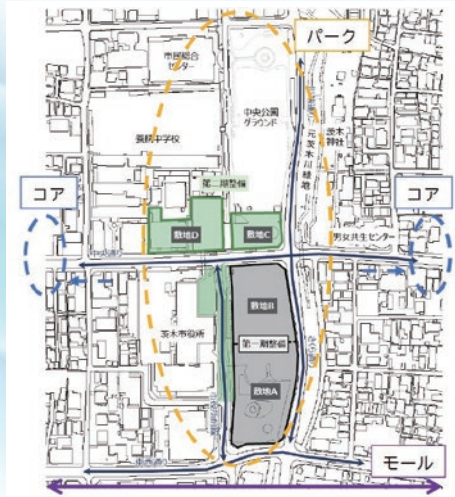
## ■パークエリアの2期整備「中央公園のリニューアル」

1期整備「おにクル」では、多種多様な活動が繰り広げられ、市内外の多くの人々が訪れるなど、本市中心市街地に新たなにぎわいを見せています。

そうしたにぎわいを広げていくべく、2期整備として「中央公園のリニューアル」に取り組んでいます。

整備にあたっては、これまでイバラボ広場において実施してきた社会実験で生まれた多様なアクティビティを活かしながら、公園らしい滞在や憩いの場としての快適性向上など、官民連携事業として「公募設置管理制度(Park-PFI)」や「指定管理者制度」を活用し、魅力ある公園の整備を目指しています。

コンセプトである「シェアとリンク」の考え方のもと、民間事業者や市民との共創により、新しい公園整備にチャレンジしていきます。



### 整備コンセプト

#### 『share to link(シェアとリンク)』

様々な人・過ごし方が、緩やかに空間・時間を共有="share(シェア)"できる場所であり、人やアクティビティをつなげていく="link(リンク)"ようなエリアとなることを目指します。

## ■今後の事業の進め方

2期整備は、民間事業者へのサウンディング調査を重ね、令和8(2026)年度以降、民間事業者の公募の手続きを進める予定で、検討を進めています。

## ■民間事業者や市民に期待すること

茨木市のまちなか(中心市街地)では、おにクルのオープンにより、茨木らしいまちの楽しみ方や使い方が日常の景色として見られるようになりました。その景色を2期整備などの各種プロジェクトを通じて、民間事業者や市民の皆様と共に広げていくのが次のステップです。

皆様と一緒に、「ひと中心のまちなか」に向けた新たな公園づくりにチャレンジしたいと考えていますので、アイデアや提案をお待ちしています。

ひと中心の茨木まちなかの様子として▶  
10のスタイルを示したコンセプトブック

